

# 定例教育委員会【議事録】

日 時 令和7年1月10日(金)  
15時～

場 所 岡谷市役所3階 301会議室  
署名委員 小平教育委員、轟教育委員

## 【次 第】

### ○ 開 会

### ○ 教育長報告

### ○ 議 題

1. 休日の学校部活動の地域移行の取組状況について【資料 No.1】 (教育総務課)
2. 岡谷市史編さん委員会設置要綱の制定について【資料 No.2】 (生涯学習課)

### ○ 報 告

1. 年度末・新年度の行事について【資料 No.3】 (教育総務課)
2. 川岸学園整備事業 基本設計(案) 市民説明会について【資料 No.4】 (川岸学園整備室)

### ○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

## 出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 小平 陽子、教育委員 轟 美緒、  
教育委員 林 慎太郎

## 事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、  
生涯学習課長 白田 研一、スポーツ振興課長 小松 隆広、市史編さん室長 小池 秀昭  
教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、  
川岸学園整備室川岸学園整備主幹 新村 尚志、生涯学習課文化財主幹 霜鳥 哲也  
教育総務課主任 大島 俊輔

## <会議録>

### ○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和7年1月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は小平教育委員と轟教育委員にお願いいたします。

### ○教育長報告

宮坂教育長： 初めに私から報告をします。

1月5日は二十四節気の「小寒」でした。小寒の初日を寒の入りとも言います。年末や正月に、義理の父のお家に訪れると芹の根を使った料理をごちそうしてくださったことを覚えています。芹の根を使った料理は経験がなかったのですが、とてもおいしく、また、命をいただいている思いがありました。私の中で鮮烈な思い出になっています。

子どもたちの姿から報告します。13日間の年末年始休業が終わり、1月8日に三学期の始業式がありました。休み中の大きな怪我や事故等の報告はなく、各校で良いスタートを切れました。

12月14日には諏訪・こども人権の集いがありました。神明小学校からは人権の花の取組について発表をしましたが、独自のキャラクターを用いて会場がとてもよい雰囲気になりました。また、岡谷東部中学校の3年生が「ハンデがあっても」という題名の作文を朗読してくれました。ひいおばあちゃんの白杖に関する作文でした。その白杖の役割や、その杖を今も大切に保管しているお母さんの思いについて触れていました。

12月21日には岡谷北部中学校の合唱団の部員37名が「こども音楽コンクール」の東日本優秀演奏発表会にて発表をしてきました。

12月23日には長地小学校の版画カレンダーの寄贈があり、児童が教育長室を訪れてくれました。4人の子どもたちが長地小学校の伝統を守り、アレンジしていく作品を見ることができました。また、文化や表現を想像していく長地の子どもたちの育ちを感じました。

12月25日ですが、同じく長地小学校の八並伸之介さんの自由研究が2年連続で、文部科学大臣賞を受賞しました。表彰は後日ですが、昨年度からさらにパワーアップされた作品になっているようです。

1月25日には岡谷北部中学校の生徒たちが主体となり、文部科学省が主催の全国いじめ子どもサミットに参加してきます。生徒会、学級長会から応募したところ、長野県の代表校に選抜されました。とても嬉しく思います。岡谷にはいじめ根絶子ども会議もありますので、それも子どもの励みの一因になったのかと思います。

職員の様子から報告します。12月20日に市の校長会で檜川小中学校へ視

宮坂教育長：

察に行ってきました。義務教育学校のソフト面の教育課程や、特色ある教育、職員室の机配置などが参考になりました。その後、下伊那の泰阜小学校に行きました。ここには村立の学校美術館があるととても珍しいところであり、翌日には満蒙開拓平和記念館も訪れました。職員の方のお話を伺ったところ「岡谷市内7小学校の学びがとても励みになっており、学校の先生方の語りに私たちも勉強をさせてもらった」という嬉しいお言葉をいただきました。引き続き、心揺らし対話する学びの機会にしたいと思っています。

つづきまして、生涯学習課から、「二十歳を祝う会」についてであります。令和7年1月12日午後2時からカノラホールにおいて「二十歳を祝う会」が開催されます。代表者2名による司会で式典を進行し、今井区、間下区の代表者が「誓いのことば」を述べるほか、中学卒業時の先生方からのメッセージ動画の放映や、今回の対象者が二十歳に至るまでのイベント等をまとめた動画の放映を行い、二十歳の門出にふさわしい式典にしたいと考えております。

轟委員さん、小平委員さんにもそれぞれ「開会のことば」「閉会のことば」をいただきます。重責を担っていただきますがよろしく願いいたします。

最後にスポーツ振興課関係を報告させていただきます。

2025年、元日の早朝は、厳しい寒さのなかにも爽やかな青空が広がり、今年で46回目を迎えた元旦マラソンに、子どもから高齢者まで約200人が、走り初めを楽しみました。市長の号砲で一斉スタートした参加者の皆さんは、湖畔を走る二つのコースからいずれかを選択し、白い息を弾ませながら、思い思いのペースで湖畔を駆け抜けておりました。それぞれが新たな決意を胸に、清々しい新年のスタートが切れたのではないかと感じているところであります。

次に、岡谷市営庭球場の砂入り人工芝コートの張替え工事が12月26日に完了し、1月4日にリニューアルオープンしました。これまでの人工芝コートは経年劣化に伴い、利用者の皆様に不便をきたしておりましたが、スポーツ振興くじの助成金を受け、安全で快適に利用できる環境整備を実施することができました。オープン当日には、多くの利用者が訪れ、新しい人工芝コートの感触を確かめながら、初打ちを楽しんでおりました。これからも、多くの市民の皆様に利用していただくとともに、皆様に親しまれ愛される庭球場として、大切にしていきたいと思います。

## ○議 題

### 1 休日の学校部活動の地域移行の取組状況について

<部活動の地域移行に関する本年度の取組み状況について、資料 No.1 に基づき事務局より説明>

**小平教育委員：** 国の指針の中にはスポーツだけでなく文化芸術活動についても触れられていますが、やはり活動をする際に人数が必要なスポーツ系が中心になって話が進んでいるイメージがあり、文化・芸術系でも音楽や書道などのチームでやっている活動は地域移行が比較的進んでいると思います。現在の状況について教えてください。

**事務局（西山）：** 各中学校で部活動運営委員会が開かれており、市の職員も参加をさせてもらっています。例えば吹奏楽部ですと課題になるのは楽器の移動です。拠点校を設けて部活動をするとしても、楽器の移動についても検討してほしい、と運営委員会に参加している保護者からご意見いただくこともあります。

移動方法や場所の確保は難しい課題ですが、岡谷市にも音楽協会がありまして、地域移行に関するご相談もいただいていますので、今後も検討を進めながら地域移行を進めてまいります。

**小平教育委員：** 文化・芸術系にも多くの部員が所属しており、需要があります。個人的な意見ですが、子どもたちの部活動の選択肢が少ないと感じています。文化系にも様々あり、岡谷には岡谷蚕糸博物館もあります。工業系も強く、プログラミングの講座も既に設けられていることは、とてもよい活動だと感じています。部活という形でなくても、子どもたちの選択肢に課外活動があれば、様々な体験が可能です。市内の施設を生かせばそれも可能だと思います。どのような形が理想的であるかは、これから何年もかけて検討を続ける必要があると思いますが、ぜひ子どもたちの選択肢を広げてほしいと思います。

**太田教育長職務代理者：** 岡谷市の現状に生徒数の減少があり、これは必然とも思います。しかし、併せて加入率も減少をしているのが意外でした。例えば地域にあるスポーツクラブに通う生徒が増えたのか。そもそも入りたい部活動がないため、加入率が下がっているのか。現状で想定される理由はどのようなものがあるのでしょうか。

**事務局（両角）：** まず理由の一つに生徒数の減少に伴い、チームで行う活動については、存続が難しく一校では大会に出られない状況になっていることがあります。次に、より高みを目指して活動をしたいと考えている生徒もいます。学校の部活動に属さなくても、地域のクラブでしっかりと力を伸

**事務局（両角）：** ばしている生徒がいます。教育活動のなかでの部活動に焦点を当てると、部活数も加入率も少なくなっていますが、昔に比べて例えばサッカーは部活動以外で活動している生徒も多く見受けられますので、それらの要因もあり、加入率の減少につながっていると思われます。

**太田教育長職務代理者：** 県のガイドラインには、地域移行によって活動の選択肢が増え、より生徒のニーズに合った活動ができるようになることができました。ぜひ目指してほしいと思います。その競技の技術を上げることに特化した地域クラブはもうあるかもしれませんが、楽しく体を動かしたいというニーズもあると思います。岡谷市や諏訪地域が地域移行を行うにあたって、どのようなニーズを重要視して進めていくかは非常に大切になると思います。

例えばですが、冬はスケートをしている生徒が、オフシーズンには陸上やサッカーなどの他の競技ができるような、仕組みも良いと思いますし、スポーツ系と文化・芸術系の両方ができる仕組みもあれば、今までと違う魅力のある取り組みになると思います。そのような観点から6市町村の担当者会議ではどのような情報交換がされているのでしょうか。

**事務局（西山）：** それぞれの市町村の進捗状況に関する情報共有を行うなかで、市町村によっては地域に受け皿のない活動があるので、それを他市にお願いできないか、といった提案などが出ています。

**太田教育長職務代理者：** これから具体化していく段階だと思いますが、課題の一つは指導者の確保だと思います。岡谷市には部活動指導員が12名いますが、この方々と県で作成した指導者リストの関連性はどうなっているのでしょうか。

**事務局（両角）：** 基本的に、部活動指導員は地域とのつながりの中で、学校から推薦をしてもらっている人材であり、もともと外部コーチとして指導をしてくださっていた方々が多いです。県の人材バンクにつきましては、今後のマッチングで活用をしていくものになります。

**太田教育長職務代理者：** 令和8年度末という期限もある中で、そこまでに何らかの成果も求められますが、生徒たちにとってより良い環境になるよう我々も協力をしたいと思います。

一つ気になっているのが、地域移行という言葉ではなく、現状の部活動にも課題はあると思うので、地域の方々とより良い部活動を作っていくという意味で、地域創造の観点で検討を進めてほしいと思います。

**轟教育委員：** 少子化が進み、子どもたちが思うように活動できないのは問題だと思っています。合同チームの状況についてもご報告いただきました。岡谷市内の中学校だけでなく、他市の中学校とも合同でチームを作っていま

**轟教育委員：** すが、今後もそのような事例が増えてくるのでしょうか。そうなった場合、今までの部活動は送迎なしで実施しているイメージがありますが、合同チームの場合はどのように移動しているのでしょうか。また、中体連等の大会への参加はどのようなのでしょうか。

**事務局（両角）：** まず大会への参加につきまして、複数の部員がいる場合は、日々の練習は各々の中学校で行い、チーム練習については休日に数校が集まって練習をする場合もあります。例えば他市の中学校と合同チームができたとしても毎日長距離移動をするようでは現実的でなく、子どもや保護者の負担にもなってしまいます。大会には合同チームで参加するという形が現状はあります。

今後につきましては、地域クラブ活動として、地域の活動団体に委ねていくところにあります。移動手段につきましては行政の助成が必要になる部分であり、集まりやすい環境を整えていくことは必要だと思います。参考までに、岡谷市の合同スケート部活動は、冬季に（株）やまびこスケートの森で実施をしておりますが、各校からスケートリンクまでの移動はタクシーで移動しています。岡谷にもこのような前例はありますので、そのような集まりやすい環境をセットで整えていき、その過程では、国の補助等も確認し活用する必要があります。今までは学校単位で大会に申請する必要がありましたが、これからはクラブチームでも大会に出られるようになっていきます。拠点校や地域クラブなど、様々な選択肢がある中で大会にも参加をする、という環境を整えていきたいと思えます。

**林教育委員：** 中学生になるときの一番大きな変化は、私服から制服に変わることや、部活動の存在があります。部活動の概念を大人が変えていかなければならない時期だと感じました。地域移行について生徒がどう感じているか、ヒアリングも機会があればやってほしいと思います。中学生が何かに打ち込むことはとても大切であり、そのためにもどのような活動があるか、保護者の負担はどの程度か、大会はいつ行われるか、といった情報発信があっても良いと思えました。

現在、部活動を指導して下さっている方々のコンプライアンス指導については現状どのように実施しているのでしょうか。

**事務局（西山）：** 部活動指導員につきましては、県で実施している研修会への参加を必須として任用しています。その研修会でハラスメントや教育的な指導について学んでもらっています。

**事務局（両角）：** 中体連の大会に、地域クラブチームが参加し、成績を残している事例があります。中体連の趣旨に則して参加をすることが必須ですので、従来の関係性を守って地域に移行が進んでいる状況だと思っています。

またご意見としていただいた、情報提供につきましてですが、過去に実施した部活動地域移行検討委員会で、保護者の方からも同じように地域にどのような地域クラブがあるか分からないというご意見がありました。どのような地域クラブがあるか、スポーツ振興課で把握しており、今後の情報発信の中で分かる部分だと思っています。

**林教育委員：** スポーツ振興課が知り得るクラブ以外にも、例えば書道のクラブなども含めた、広い情報発信をしてほしいと思います。

**事務局（両角）：** そこには難しさがあります。生業にされているお稽古事のクラブまで、行政がアナウンスできるかということです。もちろんどのクラブに所属するかは生徒の自由な選択ではありますが、習い事の類と中学の教育活動として行っているスポーツ、文化・芸術活動は少し土俵が異なります。すべてを含めた情報発信ができるかは課題だと感じています。

**宮坂教育長：** 地域人材の協力を得ながら、生徒にとって望ましい部活動の実現や学校の働き方改革を通じた学校教育の質の向上を図るため、取り組みを進めることが重要です。

今後も引き続き、関係者の方々の理解を得ながら、部活動の地域移行を進めてまいりたいと考えております。

## 2 岡谷市史編さん委員会設置要綱の制定について

<岡谷市史編さんを進めるにあたり、新たに岡谷市史編さん委員会を設置する内容を、事務局よりNo.2に基づき説明>

**太田教育長職務代理者：** 全体の市史編さん委員会があり、新たに編集専門の委員会を設ける理由について、もう一度ご説明いただけますか。

**事務局（霜鳥）：** 市史編さん委員会につきまして、業者に委託し執筆をしてもらった内容につきまして確認をすることが主な作業になります。編集専門委員につきましては、既に発刊されている岡谷市史の内容について、発刊当時と現在で異なっている個所の確認や修正が主な作業になります。

**太田教育長職務代理者：** 市史編さん委員12名の中に、編集専門員も含めれば良いと思っていましたが、作業量も膨大なためそのような体制を取っていることが分かりました。

宮坂教育長： それでは、岡谷市史編さん委員会設置要綱の制定につきまして、教育委員会として承認したいと思っておりますがよろしいでしょうか。

〈承認〉

円滑に市史編さん業務を進めるため、本要綱の設置等を通して、より良い体制作りを進めてまいります。市史の刊行まで、まだまだ長い道のりですが、今後ご協力をお願いします。

## ○報 告

### 1. 年度末・新年度の行事について

〈年度末・新年度の行事について、資料 No.3 に基づき事務局より説明〉

### 2. 川岸学園整備事業 基本設計（案）市民説明会について

〈12月に2回実施した、川岸学園整備事業基本設計（案）の市民説明会の内容について資料 No.4 に基づき事務局より説明〉

太田教育長職務代理者： 私も参加しましたが、市民の皆さんの期待感を肌で感じるできませんでした。また、様々な視点からの意見が出ていました。特にどのような教育をしていくのかについては非常に関心が非常に高いということが分かりました。

小平教育委員： 設備に関しては様々な意見を取り入れながらしっかり進んでいると感じています。質問ですが、川岸学園NEWSはどこまで配布されているのでしょうか。

事務局（新村）： 川岸学園NEWSにつきましては、川岸小学校の保護者全員、川岸地区全域への配布に加え、HPへの掲載をしております。また全保育園にも配布しています。

小平教育委員： 川岸地区以外の方からの反響はあったのでしょうか。

事務局（新村）： 二回実施した市民説明会では、川岸小学校の体育館で実施した12月13日の説明会より、岡谷市役所で実施した12月16日の説明会の方が参加人数は多く、川岸地区外からも多くの方が参加しました。地区外からも川岸学園に入学できる方法を検討してほしいというご意見もいただき、私も市民の皆様の期待感を感じました。

## ○その他

### ・行事等について（各課）

〈各課より行事予定について説明〉

宮坂教育長：           ありがとうございます。  
                              それでは事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局（両角）：       次回の定例教育委員会は  
                              2月7日（金）9時30分から605会議室を予定しています。  
                              よろしくお願いいたします。

宮坂教育長：           ありがとうございました。  
                              以上で定例教育委員会を終了いたします。

16時45分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 7 年 2 月 7 日

教 育 長

宮坂 享

署 名 委 員

太田 博久

署 名 委 員

林 慎太郎

調 製 職 員

白上 淳